

立教186年 Hinokishin Day

全教一斉 ひのきしんデー

4月29日
土祝

感謝の心で..ひのきしん 日々の実践につなげよう




ひきよせ



発行所
天理教夕張大教会
〒068-0029 北海道
岩見沢市9条西6丁目21
☎ 0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
yubaridai146@gmail.com
ホームページ
bariten.main.jp



夕張大教会

LINE 友達登録
お願いします

年祭活動始まりの春に際して、自分がどこへ向かって進んでいきたいのか、自問が続いております。世界は皆きょうだいと言いながら、この国には多くの孤立が存在し、海の向こうは絶え間なく争乱が起きています。常に明るく振る舞える心に近づきたいのですが、反面悲しんでいる人や、飢えている人が居る事を、つい自分が忘れそうになります。世の中のニュースには心が痛みますが、そうは言っても自分が関わることが出来る目の前の人々は限られています。

おやさまの口伝の中に、「人間は悪いものを見て悪いと思うからいけない。まず、見える目があるて良かったと思いたくない」という意味のご逸話がありました。なるほど、悲しいことに心を痛めても、まずは自分にとつての喜びを探し、じっとしないで目の前のきょうだいに親切にすることが、遠回り

— 私の年祭活動とは —

会長より皆様へ

でも確かな歩み方なのだなと感じた次第です。

3年間、妻や、協力して下さった教友の方々と共に、陰ながら生活をお支えさせて頂いてきた、あご家庭の鬱病のご主人が、私達ではありませんが、心の頼りとしていた恩人が本州から訪ねて来て下さったお陰で、先月ようやく床から起き、3年ぶりに部屋から出る事が出来たと、その奥様から聞かせて頂きました。先月15日の朝には、「ご主人から着信があり「ずっと家族を支えてくれてありがとうございました」との言葉に、「これからもずっと一緒ですよ」と答えました。その家のお子さんは男の子で、先月私が話をさせて頂いた中学の卒業生でした。卒業式の夜、お祝いにお家を訪ねると、そのお子さんも、3年ぶりに私と目を見て話をしてくれて、笑ってくれました。コロナ禍で忙しくなった夜間運送のお仕事で、身体を壊してしまい、子供達を食べさせられない申し訳なさから、鬱病を発症してしまつたそのお父さんを、中学の三年間ずっと、大好きで、静か

お知らせ

全教一斉ひのきしんデー 4月29日

月次祭 5月15日(月) 9時30分開扉献饌

少年会夕張団総会 5月21日(日) 9時受付

少年会夕張団総会開催


5月21日(日) 9時より受付開始

大教会へ集合して少年会員がおつとめをつとめます。

ご家族で総会へご参加お願い致します。

式典の後、昼食を食べてお楽しみ行事！

14時頃解散予定です。景品が当たるかも！



に見守ってきたお兄ちゃんでした。その子の、肩の荷が降りたような顔を見て、また涙が出ました。横を見ると、神様を信じてずっと明るく辛抱してきた奥様の手を、妻が握っていました。

自分は今も、大きな事は出来なくとも、自分にできるお助けを続けるのだと、思いを思いを新たに致しました。

大教会長 藤田大和

三月月次祭の様様

3月に入り、道内は一気に気温が上がり、雪解けが急速に進んだ。例年ではなかなかないであろう、10度を超える気温が毎日続き、道民にとって待ち侘びた春が一早く到来したような感じであった。祭典前日の14日には、理事役員

の会議が大教会で行われた。月次祭当日の15日は朝から天気も良く、道内各地からこの日を楽しみに参拝者が大教会へと足を運んだ。

定刻9時半より開扉献饌。祭儀式のち祭文奏上。その後、座りつとめ・十二下りのてをどりが勤められた。穏やかな陽光が参拝場へも入って、参拝者もそれぞれ春を迎える喜びを表したような笑顔で、おつとめを参拝していた。

十二下り終了後、直ちに準備がなされ、春季霊祭が勤められた。この度は富山敦雄・栗山分教会五代会長と直轄信者の松下千鶴さんの2名の霊様が合祀され、その家族、関係者が参拝された。また各教会を代表し美由紀奥様が参進し、奥様の手に合わせて全員で参拝した。

講話に先立って辞令交付があり、この度新たに青年会の部属分会7分会で委員長が交代し、大教会長

より所属会長に辞令が渡された。

講話には藤田文雄前会長が登壇し「三年後には教祖百四十年祭があり、三年千日が始まっています。お道で大事なことで、仕切つてさせて頂くといい事ですが、別

段今までと違う事をする訳ではありません。しかし、人間は忘れてしまうので、十年毎に心を新たに

して、頑張る。論達にも『教祖』と幾度も書かれています。教祖のお姿を心に置き、そしておつとめとおたすけによって、世界を陽

気な世の中にしていく、という事です。お道の教えというのは、非常に単純明快だと思っています。天理教とは、一言で言うと、助け合っ

て陽気に暮らすという教えです。言葉では簡単ですが、実行となるとなかなか上手い、かない。私達、教えを先に聞いている人間が、世

の中がそのようになっていく為に、働かなければいけない。つまり、助け合つて陽気に暮らす事を、我々先達が先に勉強して、それを伝えることです。

天理教の説き方は、私は三つだと思っています。まずは感謝です。身の回りの多くの人達、そして大なる自然の恵みに生かされている、という感謝ですね。そして人

間は心の自由を頂いています。その中で好き勝手に生きて心にはほり溜まる。そこで、お掃除ですね。感謝、お掃除ときたら、その次は種蒔きです。この三つが私にとってのお道の信仰です。

世の中の一番の悩みは人間関係だと言われています。これはさっきの三つを実行すれば解決できる

んだけど、逆をすると人間関係が壊れますね。感謝をしない。心の掃除をしない。種蒔きをしないで、収穫だけする。これをやっていると、人間関係を壊しますね。だからこの三つをしつかり続けていくと、人間関係の悩みはなくなる。それ

だけでなく、様々な悩みはこの三つで解決できると思いますね。

私の母が出直して数か月後、夢の中に母が出てきました。夢の中とはつゆ知らず、元氣そうな母の姿に大変喜んでいました。しかし、ふと母が出直したのはもう過去のことだったはず、と思い、そのことを尋ねると、『信仰には過去も現在も未来もない！』と強い口調で諭されました。目が覚めて我に返

りました。気が覚めた母が元気がいい姿を見て、救われた思いがしました。その一方で謎が残りました。夢の中の言葉は、一体どういう意味なのか。皆さんどう思

いますか。

この世界はどこまで行っても今、今、今との連続なんです。だからこの今を大切にしなければいけません。明日幸せになる事ではなく、今日幸せな気持ちにならなければ。また今日種を蒔かなければ、明日には芽が出ていないんです。最近になって、そういう事なのか

級する為にはもう4か所の教会を新設する必要があります。必死で丹精し、その時を迎えたのでした。陸級の前年に、西尾庄市先生から私に青年会委員長のバトンを渡されました。当時まだ兵神の青年をしていましたが、総会をせよとの事でしたので、夕張に帰って総会をしました。北海道に残っていたメンバーが一生懸命声を掛けてくれたお陰もあり、なんと300名の参加者が集まりました。後の兵神会長の清水與一先生もお越し下され、

今から丁度50年前、昭和48年7月26日、大教会陸級のお運びがありました。教内は、教祖九十年祭

『夕張は人がいるなあ』と仰っていました。大教会陸級前の高揚感が伝わる、一場面でなかったかと思

います」と話された。その後殿内の照明を落として、陸級奉告祭の時の写真をスクリーンにスライドショーで流した。集合写真を大写にして、一人ひとり前会長が解説し、在りし日の先輩達や父母の姿を見て、参拝場からは感嘆の声が多く上がっていた。また、今とは違う、当時の大



昭和48年9月9日 陸級奉告祭

教会の様子には、若い人達も感心しきりで、前会長の説明に耳を傾けて、熱心に古い写真を眺めていた。(今月神殿講話と陸級奉告祭の写真がホームページでご覧頂けます)

に向かうところで、兵神大教会長の清水國雄先生は、この旬に兵神から7か所の教会を大教会として本部へお供えする、と考えられた。一番先に声が掛かったのは夕張でした。当時部内46か所であり、陸



修養科で得た勇み心
渡部優理(善進道)

この度修養科修了させて頂けた事に際し、多くの方の支援と協力を頂いた事と、お願い込みをして頂いた事に、心から御礼申し上げます。ありがとうございます。

正直なところ、行かせて頂く事が決まってからは不安でしかありませんでした。まだ三ヶ月の息子と、走り回ることが仕事の2歳の娘を連れて。また、教理の勉強もついていけるだろうか、おてふりも覚えられるだろうか、プレッシャーもあったように思います。

いざ始業式が始まり、当たり前ですが周りは知らない人ばかり。年齢層も私の年代は少なく、なかなか話をすることができませんでした。そんな不安を払ってくれたのが、おぢばの温もりでした。

天理託児所の保育士さん。同じ組内の教友達。憩の家。大亮さまご夫妻。詰所の皆さん。おぢばがえりに来られた先生方。沢山の方との出会いがありました。何ひとつ欠けても乗り切れなかったように思います。

面接に行ったその時から「早く預かってもらいたい」と思えるほど、保育士さん方の心からの温かい出迎えとその笑顔。身上、事情がありながらも、たすけあいの姿そのものであった組内の皆さん。何件か回った小児科でも、スッキリご守護いただけなかった子どもの身上的悩み。最後に行った憩の家での布恵奥様との出会いと、貴重な教祖のおさがりを頂戴し、処方してもらった薬も効くという不思議なご守護。

毎月子守りをして下さり、差し入れまでしてくださる信者さん。皆さんのおかげで、今思えば、まだ一ヶ月くらいしか経ってないのではないかと思えるほど楽しく過ごさせていただけました。

そして私自身、誰に言われたでもなく、年祭活動三年千日の心定めをさせて頂けたことは、自分自身の心が少しでも成人の道に近づかせていただけたのではないかと喜ばせて頂いています。

あんなに不安だった修養科でしたが、もつと皆さんと居たい、出来る事ならこのまま住みたいと思えるほど勇める場となりました。今後この気持ちを忘れずに、教会生活と職場とを今まで以上に明るく勇ませていただきたく思います。

3月25日、夕づとめ後の6時より、夕張詰所講堂で、コロナ禍を乗り越えた教祖百四十年祭に向かう第一歩目の行事として、「TFA式イライラしない子育て講座」が開かれ、20名が受講した。

詰所で子育て講座開催

詰所に宿泊した者の他、おぢば在住の方も加わり、宇野長生先生(本部講師左写真)の軽妙なトークで、笑い声にあふれる中、「子供は聖徳太子じゃない。(中略)伝わりやすい指示をしよう」「視線を合わせて会話をしよう」「伝わりやすい表現をしよう(中略)ちゃんとしっかりとあいまいな言葉はわかりにくい」など、プロジェクトを使っての説明や、ゲームを通じて、コミュニケーションを育むコツをなごやかに学んだ。「もう子育ては済んでいます。教会の少年会や孫達との接点で生かすことができるとお話で、とても良かったです」など感想があった。(記事 藤崎実)



春の暖かな陽気の中、4月2日に大教会にて青年会あらしきとつりよう入門塾に入門塾が開催された。対面での行事開催は実に3年振りとなり、久々に顔を揃えた会員は11名、OB2名を含めた総勢13名が集った。開講式に引き続きオリエンテーションを行い、2チームに分かれて言葉を使わずに年齢順

青年会 あらしきとつりよう入門塾

その後、『対話の時間』と題し、二人一組でお題に沿って、一方がもう一方に質問だけで様々な事を聞き出す、という時間を持った。それぞれのペアの話は白熱し、制限時間が足りない程会話が盛り上がった。



最後に神殿前にて集合写真を撮って解散。夏に予定される分会総会での再会を誓って、それぞれ帰路に着いた。(委員長 藤崎勇)



イライラしない子育て講座



少年会 第41回祝梅若人会総会



3月21日(火・祝)、祝梅分教会におきまして、若人会に携わる会員・スタッフ17名、教会・ひのきしんの方々18名、総勢35名がつづい、総会をつとめさせて頂きました。今年も新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、座りづとめ、よろづよ八首を執り行い、その後は会長様から御祝辞をいただき、委員長の挨拶、記念撮影を短い時間で実施いたしました。まだ従来通りの若人会総会とはなりません、今年も若人会総会を実施出来ることに対して大変嬉しく思っています。これもひとえに、教会・ひのきしんの方々やスタッフの方々のご支援とお力添

えの賜物です。今年度の行事も実施することが難しい場合があると思いますが、その都度スタッフで相談し、出来ることを精一杯務めさせていたただきたいと思えます。祝梅若人会委員長 伊藤伸幸

学生生徒修養会

大学の部 感想

今回、学生生徒修養会大学の部に参加させて頂きました。おつとめの大切さやおつとめができることの有り難さを再認識する、とてもいい機会になりました。新たな仲間もでき、とても楽しかったです。学生の皆さん、学修に参加してみたいかがでしょうか？

富山優理(栗山)

高校生卒業生コース感想

父に「学修行してみない？」という紹介で「何事も勇んでさせてもらおう」という心定めのもと、参加させて頂きました。今まで学生生徒修養会という行事を知らなかつた自分に後悔していると共に、こんな楽しい行事に参加させてくれた父に感謝しています。学修では先生のお話を聞き、普段はあまり話すことのないお道のことなど、グループワークで自分の意見を言い、みんなの意見を聞

くことで、お互いを認め、新たに気づくこともあり、とても楽しかったです。おちばで催される行事は、自分にとってかけがえのないものだなと実感することができました。ここで出会った仲間たちも含め、これから多くの人とつながりを持って、そのつながりを大切にしたいと思っています。

富山理雄(栗山)

春の学生おちばがえり報告

3月27日、学生会委員長の富山優理くん、理雄くん兄弟と共に、27日は吉野の蔵王堂へ行つて秀司様の話を聞いて貰いました。3月28日、中庭にて式典が行われ、午後の直属アワーでは本部推進隊のひのきしんをした後、北八州の各務結さん(天大2年)とそのお友達と計4人、仲良く話所ひのきしんをしてくれました。

(大教会長)



結さん 優理くん 理雄くん

布教の家愛知寮へ入寮

今年度、高橋悟志さん(祝梅分青年会夕張分会副委員長)は、布教の家愛知寮に入寮しています。3月29日には、おちばがえりをされていた、所属教会の信者さんに見送られ、入寮研修会へ。翌日現地へ出発しました。

父である高橋太志役員(祝梅分教会長)、そして祖父の美津志氏(祝梅分教会前会長)も、愛知寮OBで三代に渡り同じ道を歩むことに。次号からは、一年間を通じて、悟志さんの布教道中を紹介していきたいと思えます。(記事・岩佐善昭)

庶務部 3月

- ▽話所ひのきしん 梶川創一郎(新生生) 2・25〜3・25
- ▽初席 松尾 美香(継立) 3・24
- ▽修養科 979期修了 渡部 辰大(善進道) 3・27
- 渡部 優理(善進道)
- ▽教人資格講習会 中期/後期 4・1〜10
- 竹田 悦子(馬追)
- 大西麻友美(馬追)
- ▽をびや 1件
- ▽話所教養掛 4月 千葉祐生(大龍)
- 5月 富山知一(栗山)
- 松尾澄夫(継立)
- 1日 たすけ推進会議
- 4日 会長、支部例会、組例会
- 11日 会長、理喜道分巡教
- 14日 月次祭準備、理事役員会
- 15日 月次祭・春季霊祭
- 17日 前会長、札美分へ
- 16日 会長、保護司活動
- 19日 会長、前会長、札美分参拝
- 23日 会長、おちばへ
- 24日 会長、本部神殿当番
- 25日 会長夫人、おちばへ子育て講座(話所)
- 26日 本部月次祭、会長、雅楽奉仕 遙拝式
- 27日 本部春季霊祭、会長、雅楽奉仕
- かなめ会、学生会引率
- 28日 会長夫人、婦人会本部例会
- 28日 春の学生おちばがえり 会長、学生引率
- 29日 会長、婦会
- 31日 会長、保護司活動

大教会日誌抄 3月



高橋悟志さん 祝梅の帰参者の方々に見送られ